

いすゞは、自動車の使用にともなう環境負荷を低減するために、自動車単体の改善にとどまらず、自動車を取り巻く交通・物流の輸送効率向上による環境負荷低減を視野に入れた幅広い取り組みを進めています。

目標	施策
新交通システムの開発	ITS ^{*1} プロジェクトの推進
物流支援システムの開発	いすゞ運行管理システムの開発
自社製品・部品物流の合理化	海上輸送拡大、梱包・包装資材低減、共同輸送拡大

実績
 大気汚染や地球温暖化をはじめ、交通渋滞等道路交通が抱えるさまざまな問題の切り札としてITSが世界的に脚光を浴びています。

いすゞにおいても1997年に専門部署を設置し、その技術開発を鋭意進めてきましたが、これまでの実績を簡単にご紹介します。

安全かつ効率的で環境にも配慮した、高度な次世代型新交通システムを実現するためには、エレクトロニクス技術・情報通信技術を駆使した車両そのものの高知能化は飛躍的に進んでいます。

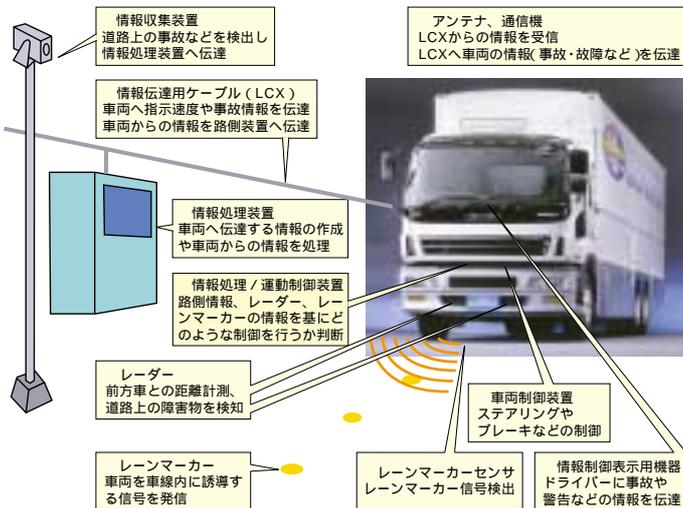
いすゞでは、この分野の技術開発に積極的に取り組んでおり、すでに自動運転の大型トラック「ギガ」をテストコースにて走らせ、性能の熟成と信頼性の確認を急いでいます。

この技術が実現されると、安全性が大幅に向上するだけでなく、安定した省燃費運転も可能となります。

また、編隊で自動運転走行をすると、車間距離を詰めることができるため大幅に空気抵抗を減らすことができます。そのため、特に高速走行時の場合には10%以上の燃費向上が期待できます。

新交通システムの開発

AHSシステム図



一方、政府が強力に進めるAHS^{*2}プロジェクトにも、唯一の商用車メーカーとして積極的に参画しています。

これは、道路と車両を情報通信で結んだ路車協調システムで、さまざまなサービスをドライバーに提供しようというものが、最終的には自動運転をめざします。

このAHSにおいても、すでに筑波にある建設省土木研究所のテストコースにていすゞの大型車が試験走行を開始し、多くの電気通信メーカーと協同で路車協調通信システムの開発に取り組んでいます。

*1: Intelligent Transport Systems = 高度道路交通システム

*2: Advanced Cruise-Assist Highway System = 高度走行支援道路システム